

# 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

260216

令和8年2月16日(月)

札幌市立緑丘小学校

学校目標 … 強い子(心身の健康) やさしい子(情操の陶冶) 考える子(学習の成就) きまりよい子(徳性の涵養)  
実践目標 … 心がつながる学校 ~あこがれとありがとうでつながるみどりっ子~

教職員の「自己評価の適切さ」「改善策の適切さ」を4段階評価(A:大変適切、B:おおよそ適切、C:一部適切ではない、D:全く適切ではない)を学校関係者評価委員の方々に評価していただいたものです。

| 分野  | 評価項目   | 自己評価 |  | 学校関係者評価  |         |
|---|--|------|--|----------|---------|
|   |  | 達成状況 | 改善の方策  | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 学校生活  | 子どもたちは学校生活を楽しんでいる。   | A    | 昨年度同様、児童、保護者ともに肯定的な回答が90%を超えた。多くの児童が学校へ行くことを楽しみにしており、子どもたちにとって学校が大切な場所となっていることに自信を深めると同時に、責任の重さをあらためて感じている。<br>しかし、否定的な回答の児童も一定数いることに今後も目を向け、困りのある児童への関わりを継続して行う。今年度より設立した相談室の使用、専科指導による学習支援、担任外・学びのサポーター、相談支援パートナーの力も借り、学校生活支援の充実を図る。子どもの困りに対応できるように、学びの支援部など関係校務分掌を中心に情報の収集・共通理解・外部との連携などを、組織的に行う。 | A        | A       |
|   | ① 心がつながる教育活動を通して、充実した学校生活を送り、知・徳・体のバランスのとれた子どもを育むための関わりができたかを評価。 |      |  |          |         |
| <b>【学校関係者評価委員による意見】</b><br>肯定的な意見が多く、大多数が学校生活を楽しんでいる結果がうかがえるが、児童、教職員の否定的な意見が気になるので、改善方策に書かれている関わりの継続を期待したい。否定的な10%の児童に対しても十分な対応はできていると思う。 |  |      |  |          |         |

| 分野        | 評価項目  | 自己評価 |  | 学校関係者評価  |         |
|-----------|---|------|--|----------|---------|
|           |   | 達成状況 | 改善の方策  | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| まなびづくり(知) | 学びに自分の意志をもつ子を育む「授業改善」<br>「子ども自身が、事象や資料、他者の考えなどにふれる中で、解決したい課題や問題を見付けられる授業」<br>「主体的に教材や事象、仲間に働きかけ、解決の方策を見付け、学びを深められる授業」<br>このような授業づくりを行うことができていたか、子どもの姿で具現化できていたかを評価。             | B    | 研究主題「学びに自分の意志をもつ子」の具現化に向けて、各教科・領域で付けた力を明らかにし、よりよい授業にするために、改善に向けて取り組んだ。本研究の2年目として、各教科部会に分かれ、全校研を行い、教職員の中で研究に対する理解を深めてきた。その結果、授業力が向上し、児童の84%から肯定的な回答があり、成果として表れている。<br>また、否定的な回答をしている児童が一定程度いることから、何が本人にとって問題なのかを分析し、「学習が楽しい」と子どもが思うことができるよう、授業改善を図っていく。                               | A        | A       |
|           | 学びに自分の意志をもつ子を育む「みどりっ子学習」<br>「自分の課題や興味等をもとに『自分で決める力』を育てる家庭学習となっていたか」<br>「家庭での学習の中で、自分で設定した課題に取り組む際、その解決に向けてどのような方策があるのか考えられるように関わることができたか」について評価。                                | C    | 「みどりっ子学習」(家庭学習の取組)において、児童の21%、保護者の40%程度から十分ではないという回答がある。みどりっ子学習の意義やねらいについて、参観・懇談の場を使って「みどりっ子学習」の意義やねらいを発信し、随時お便りやHP等で発信を続けてきたが、以前として困りのある児童や保護者にとっては、取り組みにくさを感じていたことが予想される。<br>次年度に向けて、新年度始まってすぐに教職員の研修会を行うとともに、みどりっ子学習の意義やねらいを児童、保護者に発信し定期的に振り返る場を設けることで、より効果的なみどりっ子学習となるよう取り組んでいく。 | A        | B       |
|           | 学びに自分の意志をもつ子を育む「ICTの活用」<br>「子どもたちが、タブレットPCなどを、学習用具の一つとして、使用する目的やルール、マナーを考えながら、効果的に使用することができるよう、場の設定、指導等を適切に行うことができていたか」<br>「学校が、教育活動や保護者とのコミュニケーションツールとしてICTを有効活用できていたか」について評価。 | B    | 一人1台タブレットPCの活用の充実を図って、校務分掌に「タブレットPC活用プロジェクト」を位置付け、校内のルールや情報活用能力を身に付けさせている。ICT活用の検討、活用方法の教職員への周知のために、研究授業等で活用することで、その充実を行ってきた。また、委員会活動でも積極的に活用し、児童が全校に発信できるツールの一つとなっている。<br>効果的な活用の仕方が広がってきているので、次年度はさらに、生成AIの活用なども視野に入れ、授業の中で活用していくとともに、情報モラルを系統的に育てていくことに力を入れていく。                   | A        | A       |
|           | <b>【学校関係者評価委員による意見】</b><br>保護者目録では家庭の状況しか分からないので、「みどりっ子学習」の意義やねらいがあまり認知されていないと感じる。長期的な視点で学びの本質を見付けることが狙いだと思うので、今後も継続してほしい。児童会館内でも「みどりっ子学習」を積極的に取り組む姿が見られる。                      |      |  |          |         |

| 分野  | 評価項目   | 自己評価   |   | 学校関係者評価  |         |
|---|--|--|---|----------|---------|
|   |  | 達成状況   | 改善の方策   | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 二<br>こ<br>ろ<br>づ<br>く<br>り<br>(<br>徳<br>)   | 心のつながりを大切にすることを育む「道徳」  | B  | 肯定的な回答が、児童・保護者・教職員とも9割を超えている。<br>道徳の授業を通して、教師が子どもたちに寄り添い、友達と共に学び合うことによって、一人一人の心を育てることができていると考えている。道徳教育推進教師がその専門性を生かし、教職員を対象に道徳通信を発行し、道徳の授業への関心を高めると同時に、授業で大切なことの共有を図った。また、9月の「子どもの命の大切さを見つめ直す月間」では、全学年が命の大切さを考える授業を設定し取り組むことができた。<br>次年度もこのような取組を続けていく。 | A        | A       |
|   | ⑤ 道徳の授業を通して、命を大切に、思いやりの心をもつ、友達の良いところを見付けるなどの心を育て、自分の行動や生き方を振り返られる子どもを育むことができたかを評価。 |  |   |          |         |
|   | 自分で目標を決め、みんなでつくり上げる喜びを味わうことのできる「学校行事」  | A  | 児童・保護者共に90%以上から肯定的な回答がある。学校行事に対しての大きな期待と満足感・達成感の表れであると考えている。1年間を通して全校児童がそろって、全校朝会を行うことができた。運動会前に行った表現交流会や学習発表会児童公開日、全校合唱などを通し、上級生の姿を見て「あこがれ」が広がっていく様子も伝わってくる。<br>次年度も児童や教職員が過度な負担を抱えることなく、みんなで作り上げる喜びを味わうことができるよう、保護者や地域の方々に支えていただきながら学校行事を運営し          | A        | A       |
|   | ⑥ 行事の運営や内容は児童の成長に適しているかを評価。  |  |   |          |         |
|   | 心のつながりを大切にすることを育む「特別活動」  | B  | 委員会活動では中休みなどを活用して、異学年での交流を行った。その中で上級生が下級生に優しく語り掛けている姿が数多く見られている。異学年交流を推進することにより、高学年へのあこがれやありがたいの気持ちが膨らみ、心のつながりがさらに深まってきた。また、学級活動部の教職員が中心となり、あいさつ週間や玄関先で児童の登校を出迎える活動を進めている。<br>児童活動部が中心となって委員会の日程を定期的に設定するなど、児童が委員会をより計画的に運営していけるよう進めていく。                | A        | A       |
|   | ⑦ 行事や児童会の活動などにおいて、あこがれとありがたいの気持ちを持ち、自分から挨拶をしたり、相手のためになることをしたりする取組ができていたかを評価。       |  |   |          |         |
|   | 「何のため、誰のため」を考え、行動する子どもを育む教育活動  | B  | 学習や生活の中で、児童・教職員の9割程度が「何のため、誰のため」を意識している。新年度になり担任が変わっても、この理念は変わらずに教育活動を進められていることは非常に意義深いと考えている。また、児童・教職員が大切にしている理念を保護者に様々な機会伝えてきた。<br>次年度は、より「何のため、誰のため」に見える化し、児童を通して、保護者にも、理念がより伝わるよう教育活動を進めていく。  | A        | A       |
|   | ⑧ 目的意識・相手意識を持ち、主体的に・協働的に取り組み、またその価値を感じられるような教育活動を行い、子どもたちに関わることができていたかを評価。         |  |   |          |         |
|   | 支援を必要とする子どもが安心して過ごすことができる「支援」  | B  | 学びの支援委員会を中心に、支援を必要とする児童の共有を、教職員の間で定期的に行った。また、今年度から新たに相談室を設立し、教室で学習できない児童のための場を用意した。その結果、保護者からは9割程度の肯定的な回答があった。<br>一方で、より支援が必要と感じている児童が一定数いるため、シャボテンでの日々のアンケートの実施などを通し、日常の中で、教職員が見守っているという安心感を児童に与えられるよう取り組んでいく。   | A        | B       |
|   | ⑨ 学びや生活の困りを感じていて、支援を必要とする児童に対し、支援の仕方について担任とともに検討し、サポートしている。                        |  |   |          |         |
| いじめ防止対策に関する教育活動   | B  | 定期的にいじめ対策会議を開き、学校生活アンケート、悩みやいじめに関するアンケートなどを基に、困りを抱えている児童を共有してきた。また、いじめがあったと認められた場合は、担任一人で抱えるのではなく、学年や担任外とも素早く情報共有し、解決に向けて取り組んできた。その結果、児童、教職員からは90%程度の肯定的な意見があった。<br>一方で、保護者からは1割を超える否定的な意見があった。そのため、より保護者と迅速に情報を共有することで、より連携を密にしていきたい。 | A   | A        |         |
| ⑩ いじめの未然防止、早期発見、対応に努め、軽微な問題行動についても、個別指導及び、学級指導を継続して行っている。   |  |  |   |          |         |
| 【学校関係者評価委員による意見】<br>スマホ、ネットの普及により、いじめの種類も増えてきており、シャボテンの活用により、より一層、早期発見に努めてもらいたい。支援を必要とする児童に対し、安心感を与えるだけで解決できるのか疑問が残る。もっと具体的な対策が必要である。 |  |  |   |          |         |

| 分野   | 評価項目  | 自己評価 |   | 学校関係者評価  |         |
|--|---|------|---|----------|---------|
|  |   | 達成状況 | 改善の方策   | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| からだづくり（体）  | 自分の健康を自分で守る子を育む「体育の授業」  | B    | 今年度も運動量を確保し、思考を促し、体を動かすことが楽しいと思える体育の授業づくりを行ってきた。また、体育館やグラウンドだけでなく、校内の様々な場を開放し、冬の間でも体を動かせる環境づくりを行ってきた。教職員からは100%の肯定的な意見があった。「運動が好き」という児童が多いという本校の良さを継続できるように、今後も授業・環境を改善させていく。また、保護者とともに自他の健康を意識できるよう、取組を発信していく。 | A        | A       |
|  | ⑨ 運動好きの子どもたちを育むことを意識した体育の授業づくりを行い、体育の授業を楽しみにしているか、子どもたちの意識などから評価。 |      |   |          |         |
|  | 自分の健康を自分で守る子を育む「学級活動」   | B    | 昨年度同様、通常の健康教育の他に、養護教諭や栄養士による保健指導や栄養指導を行った。さらに、6年生を対象に学校薬剤師を招いて薬物乱用防止教室を実施した。専門家の言葉は担任とはまた違った重みがある。短時間で大きな効果を生むためにも専門家の力を借りて、自分の健康を自分で守る子を育てていきたい。次年度も今年度同様の活動を続け、学校生活の基盤である安全・安心の取組を最優先して取り組んでいく。               | A        | A       |
|  | ⑩ 給食指導や保健指導、その他の学級活動などにより、自分や友達の健康と安全を気遣う取組ができていたかを評価。            |      |   |          |         |
| <b>【学校関係者評価委員による意見】</b><br>体力低下が懸念される中、これからも体を動かすことの楽しさが伝わる場が増えればよい。外部の専門家による指導は、効果的で良い取組だと思う。交通指導やサイバー犯罪対策など学校外の安全安心の取組をしてもどうか。運動については、好き嫌いがあるため、児童会館でも子供たちの自主性を大切にしている。安心して活動できることが大切。 |   |      |   |          |         |